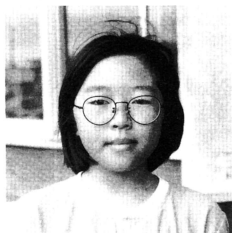




おばあちゃんからのひとこと
 弥代は、素直でとっても明るい子だ。何をするにもテキパキしているし、いっしょにいても楽しい子です。すよ。思いやりもあるし、これからが楽しみです。(タマ・61歳)

おばあちゃん
 その
 語り



宮崎 弥代
 (十三小・5年)

今月の主な記事

- 21世紀への夢を語ろう…2～5
村づくり分科会
- 過疎サミットで地域振興…6
- 途方に暮れる被災農家…7
- 市浦村長寿番付発表…8～9
- 期待されるヒラメ漁業…10
- 東日直安東まつりにぎやかに
- スポーツ** 強いぞ、相内クラブ…12
ヘルメットは身を守る…13
- 歴史漫歩…14
- おしらせ…15
- 健康へのみち…16

私の大好きな

おばあちゃん

私のおばあちゃんは、とても働き者です。朝早くから七時まで、せつせと畑を耕やしています。

おばあちゃんの楽しみは、私が旅行へ行った時のおみやげです。

去年カヌーの十和田湖大会に行つて買って来た、「さぶとん」にすわつているおじいちゃんの人形を大切に大切にしながら、ほとけ様にあずけています。

おばあちゃんは、「私ガバレーの試合などがあると、「やっちゃんがんばつてこい」と言います。そんなおばあちゃんを私は大好きです。でも、今の私には何もしてあげられません。できること言えは、長生きしてほしいと願うだけです。

いつも、同じクラスの男子が、「おめの家がタマちゃん生きてらな」と言われても、私は平気です。

ただ、おばあちゃんには長生きしてほしいです。

村民総参加のむらづくり 21世紀への夢を語ろう

合同会議に100人参加

分科会で方向性探る

あなたなら、どんな夢を

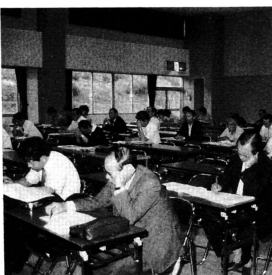
こんなまちにしたいナア

市浦村の長期総合計画を策定するための合同会議は、このほど村コミニティセンターに、村民を代表する村

長期総合計画は、二十一世紀へつなげる一九九〇年代のあり方を求めて、九十八人の村民を計画審議委員に委嘱し、昨年八月二十六日スタートさせました。

計画づくりは、役場内の若手職員をメンバーとする「企画部会」が中心に進め、資料の収集や課題整理をしながら積み上げ方式をとってきました。

その間、長期計画策定専門委員会(委員長、福島大学下平尾勲教授外十人)の講演会や、アンケートの分析、企画部会への指導助言などが行われてきました。



長期総合計画策定合同会議には、約100人が集まり村づくりの方向性について語り合いました

の審議委員、計画策定専門委員、企画部会員ら約百人が出席して開かれました。

に分かれて検討会を開き、審議委員との話しあいによる共通認識を深めるなど、計画づくりは着々と進められています。

今回の合同会議では、過去に分科会のまとめをしました。以下、合同会議の流れに沿って、要望、意見、まとめなどをお知らせします。(下平尾委員長のとめは次号に掲載)

しらの人口を 4,300人位にしては...

基本部会

過疎化現象は全国的な傾向にありますが、単に「人口が増やす」ということだけでなく、逆に、減じたままでよりよい地域づくりも、一つの発想ではないか。その中には、流動人口を増やすという新しい言葉の提言もありました。そこに住みつく人と、通過するだけの人とかを含めて流動的な人たちをさそって定着させるという発想でもありますが、基本的には、地域内にいる資源をどう使うかに生かす人口を定着させるかといった問題提起でありました。

市浦村出身で、各方面で活躍している人たちが、一年に十人位を目途に帰っていたら、教育文化、経済、医療など、同時に、中央とのパイプ役になっていただく、こういう

ふるさとへの
提言
「東日流未来塾」の開設

ことにより、製造関係の人口も増えることとなります。これらによって、今後五年間の人口予測では、横ばえの傾向で推移されると思いますが、基盤整備や後継者など人づくりにすることによって、現在の三千七百五十一人から四千三百人、約六百人の人口増をめざした村づくり構想を打ち出そう、というものです。



どれをとっても現況は厳しい...しかし、「夢の中から、いま何をすればかか考えるべきだ。」活発に行われた分科会。

どうする、後継者の育成

町内の地域は自らの手で……。自らの地域の共同作業できれいな環境をともにしてまいります。



新し、町内会が組織されて三年。一部町内会では活発に活動し、自治意識も高まっています。他町内会の活動もこれらと連動させ、行政との係わりを強化させるべきです。現在の町内会は、百戸単位

う、「ふるさとへの提言(サミット)」を定例的に開催して、地域に新しい風を吹かせる。また、地域づくりの核となるべき人材育成を図るため、「東日産未来塾」を開校、村民を対象とした塾生を募り、年通した連続フォローアップを実施する。



で組織されているので、その中に二十戸から三十戸の班編成をしてはどうか。班長制度を設けることにより、地域内の実情が理解され、意見も反映されることと思ふ。そして、自らの地域は、自らの手でつくり上げ、改められる点も、そこに住む人だち自らの手で行うようシステム化と、その気まがまが必要だと思います。

町内会の運営は自らの力で



市浦村の高齢者人口は現在全体の十四パーセントとなっているが、十年後はさらに高齢化が進み二十パーセントになると予測されます。しかし、高齢化社会といふことで困窮するのはなく、むしろ、高齢化社会を先取りした、「長寿の里づくり」を進めたいと云うか。

平均寿命が伸びており、六十歳定年制との格差もあって、「七十歳位までは、生産人口にある」という、町内会の方で、「高齢者人材銀行」の開設を考えられます。例えば、現在進めている史跡型観光で、ガイド役を担当するとか、史跡施設の管理、清掃、伝統芸能(技術)の伝承など、発展的な物の考え方で高齢者に参加

していただく事も必要ではないか。単に海を楽しむだけでなく、「安東焼き」として、青磁、白磁などの開発をするため、人材導入を図る。現在組織されている老人クラブを「老人」ではなく、「高齢者」にするとか、もっと若いイメージの名称にしてはどうか。

さらに、今後の高齢者対策としては「老保一元化」を検討してはどうか。老人と保育児と一緒に暮らす「昔話」や「伝統芸能(技術)」を孫に伝承したり、ふれあいを深め、保育所からは、孫と一緒に帰宅する……。新しい施設を造らなくても、いまある施設で十分可能性はあると思ふ。

「ふるさと」と「振興基金」と「オーナー制度」の創設。今後の財源対策は一層厳しくなるが、厳しい中で財源をどう捻出するか大きな課題と云う。いま考えられることとして、「無から有をつくらう」という発想で、地域資源の掘り起こしをする(例えばヒキチオールのような)。「フラスコ」の発想では、付加価値を高めた製品の開発。

農、漁協、商工会、観光協会など民間活力の活性化。

老人クラブでは、各種研修会を開き、「生きるとは何か」を語り合っています。

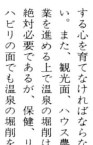


「長寿の里づくり」と合わせて、「奉仕の里づくり」も必要である。何に生きがいを求めるかは、人それぞれ異なるが、人間は生きがいは必要である。「ボランティアグループ」の育成や「福祉教育」の充実を図り、高齢者を守るという立場と、高齢者も地域社会への参加も含めて、奉仕する心を育てなければならぬ。また、観光面、ハウス農業を進める上では温泉の堀削は絶対必要であるが、健康リハビリの面でも温泉の堀削を検討する。

畜産の拠点施設と高速交通体系の整備。半島振興計画の中で取りあげられている畜産振興については、資源などを考慮すれば、単に市浦村だけでは無理があるもので、津軽半島そのものを畜産振興地域に指定していただき、畜産の拠点基地を市浦村に誘致してはどうか。畜産基地誘致とあわせて、付加価値を高めるための加工

所を設置し、生産、加工、販売のシステム化を図る必要がある。高速交通体系については、今泉から蟹田に通じ、「やまなみライン」を、できればトンネル堀削をして、市浦から

生かした小型飛行場はどうか。ここでは、津軽半島地域の農産物とあわせて、新青森空港と提携してフライト農業に発展させるなど、総合的に考え合わせる。湖型飛行場は、できないだろうか、という発想です。



有畜複合農業としても期待が大きい市浦牛

奉仕の里づくり 温泉も 欲しいナア

「ふるさと」と「振興基金」と「オーナー制度」の創設。今後の財源対策は一層厳しくなるが、厳しい中で財源をどう捻出するか大きな課題と云う。いま考えられることとして、「無から有をつくらう」という発想で、地域資源の掘り起こしをする(例えばヒキチオールのような)。「フラスコ」の発想では、付加価値を高めた製品の開発。

農、漁協、商工会、観光協会など民間活力の活性化。

生かした小型飛行場はどうか。ここでは、津軽半島地域の農産物とあわせて、新青森空港と提携してフライト農業に発展させるなど、総合的に考え合わせる。湖型飛行場は、できないだろうか、という発想です。

地域外資本の活用。これは地元外から「ふるさと振興基金」を導入して、人材育成、商工業、農、漁業などの産業を振興させる方法です。

「村有財産オーナー制度」
村有財産を村外人たちにも所有させて資金づくりをする方法など、いろいろな形で財源対策をする必要がある。

そのほか、土地利用の点については、自給自足をもう一度見直す必要がある。また、地域内に「朝市」を開設して、野菜や魚などの販売や地域住民の情報交換、ふれあいの場にしてはどうか。という提言もありました。

生活部会



診療所の体制見直し
「老保一元化」の実施

生活部会では「村民のいのちとくらしを守る」をテーマに、保健、医療、福祉について話し合いが行われました。その一つに、診療所の整備拡充と診療体制の見直しを図ることがありました。

現在の診療所は、保健センターの役割を果たせる、村民の健康と命を守る施設としてその機能整備をすることでしたが、そういう考え方に立

って、今後は保健センターを併設すべきでないか。そして保健師、ホームヘルパー、健康管理係の体制の整備を充実させ、診療と保健、管理という診療所の体制見直しを図るべきである。そのための人材養成を図るため、保健婦、看護婦、ホームヘルパーなどを養成するための奨学金制度を創設すべきでないか。

高齢者対策には、基本部会同様「老保一元化」が強く要望意見として出されました。



これからは寝たきり老人対策も重要な課題です

本村には三つの保育所があるが、定員割れしている状況で、その見直しが必要である。施設もスペース的に空き部屋も出る現状だ。お年寄りが増え、子供が減ってきている現状から、保母にホームヘルパーの知識を得るための研

修機会を与え、既存の施設、人材を高率的に活用すれば、この事業はすぐにも実施可能ではないか。

既存の施設、人材を活用することが大切であり、特に施設の利用については非効率的で、もったいない話だ。

お年寄りも人材用にも生かせるのではないか。

行事



まつりの
調整会議の開催

生活福祉の重要性を認識させるための教育、啓蒙が必要だ。昔から伝わっているまつりや行事を見つ直し、ふるさとサミットなど、文化的なイベントをやる。厳しい財政状況にあるので、金のかからない方法を検討すべきだ。

単にバラまきの医療制度、福祉政策では非効率的だ。また、行政のヨコ割り、タテ割りの見直しをして、行政の体制づくり、プロとしての行政マンの責任も問われるのではないか。

そして、イベントのプログラムの中に、住民に対する福祉の啓蒙プログラムを組み合わせる方法ではないか。

「まつりごと連絡調整会議」を開催し、一年間の行事や、

まつりを調整できる連絡会議を設置すべきだ。



まつりには、商工会婦人も積極的に参加しています

産業部会

産業部会では、十三湖の漁業、港湾、農業(畜産)、商業とサーレックス、観光とテクノロジー、出稼き問題、林業などについて話し合われました。

昭和五十七年頃から、じみ貝の異常へい死が続き、十三湖の内水面漁業に大きな波紋が広がり、深刻な問題となっている。防止する手立てを真実に検討し、早期解決を図る

必要がある。例えば、山田川に防潮堤を造り、水路を確保する。水戸口周辺の整備と漁船の誘導灯やアイなどを設置してはどうか。漁業権海域を五百坪沖合いに延長したい。

農業機械の
共同化



基幹産業である農業(水稲)を維持するためには、国県等の助成だけをあてにしないで、思い切った行政サイドの施策の検討が必要だ。

転作が上積みになっている状況から、水田、畑作など土地の基盤整備が課題である。農業機械の共同使用と労力の共同化が必要。

遊休畑を利用して、菓草の栽培、四季に応じた草花を栽培してはどうか。

後継者不足に悩んでいる。このままでは子供に農業を継がせられない。

畜産と堆肥を利用した複合農業、温泉利用による通年ハウス栽培。高齢者の経験を生産人として活用できないか。

観光みやげ品の開発
ホテルも欲しいナア



客に良いサービスができる。観光漁業と併行して観光農業にも力を入れ、観光客の増加を図る。

商人は、完全に商人になりきっていない面もある。

見せるだけの観光ではなく宿泊、おみやげ品(地場産品)づくりを、販売を促進、安東のふるさとづくりも、村だけでなく、広域的に考えなければならぬ。

観光客の意向として、宿泊施設(ホテル)がない。特に若者は観光、レクリエーションに関心があり、ホテルと温泉はぜひ必要だ。

出稼ぎ者の保護
技能習得
安全就労



本村の場合、出稼ぎが一つの産業としての位置けがある。しかし、近年就労の場も少なく、労働条件も厳しいものとなっている。労働力の需給バランスがどうなっているのか考えてみる必要がある。

特に若者には技術を取得させ、単なる出稼ぎ者にあらずという発想が、これからは大切だ。留守家族と出稼ぎ者との連携、出稼ぎ組合の活動強化を図るべきだ。

必要がある。例えば、山田川に防潮堤を造り、水路を確保する。水戸口周辺の整備と漁船の誘導灯やアイなどを設置してはどうか。漁業権海域を五百坪沖合いに延長したい。

農業機械の共同化
共同化



基幹産業である農業(水稲)を維持するためには、国県等の助成だけをあてにしないで、思い切った行政サイドの施策の検討が必要だ。

転作が上積みになっている状況から、水田、畑作など土地の基盤整備が課題である。農業機械の共同使用と労力の共同化が必要。

遊休畑を利用して、菓草の栽培、四季に応じた草花を栽培してはどうか。

後継者不足に悩んでいる。このままでは子供に農業を継がせられない。

畜産と堆肥を利用した複合農業、温泉利用による通年ハウス栽培。高齢者の経験を生産人として活用できないか。

観光みやげ品の開発
ホテルも欲しいナア



必要がある。例えば、山田川に防潮堤を造り、水路を確保する。水戸口周辺の整備と漁船の誘導灯やアイなどを設置してはどうか。漁業権海域を五百坪沖合いに延長したい。

農業機械の共同化
共同化



基幹産業である農業(水稲)を維持するためには、国県等の助成だけをあてにしないで、思い切った行政サイドの施策の検討が必要だ。

転作が上積みになっている状況から、水田、畑作など土地の基盤整備が課題である。農業機械の共同使用と労力の共同化が必要。

教育文化部会

教育を最優先に 人材育成を



村の振興に当たって市浦の弱点は、経済力の弱さである。それを補うためには、教育、人材づくりがある。

何をすることも、教育がそなわっていないといけない。例えばハウス栽培をするにも、畜産、水産加工をこれ以上進めていく上にも技術がなければならぬ。その技術を得るには、教育以外の何もならない。

住民の結集こそ 村づくりの基本



長期総合計画審議会
会長 工藤 章二郎

長期総合計画の策定は、市浦村が過疎からの脱却を図り豊かで住みよい、活力のある村づくりをめざしているもので、将来に大きな期待が寄せられていきます。村の現状では、過疎化が進

そういう意味で、市浦の将来は、教育、人材づくりに力を入れるべきだ。



健全な心は健康な体に…
中の島キャンプ場でリーダー研修会

地域社会の 連携強化



行政オンリーの町内会ではだめだ。役場の下請け的なものとして受け止めているのではない。町内会には、自治組織であることを認識してもらって、強い町内会に育てる必要がある。社会教育ともつながると思う。

イベントに
もう少し工夫を

市浦村だけのまつりになってはいないか。村外からも客を呼べるまつり、イベントの

経済的に弱い村の現状ではこの大きなカベを突破するにはむずかしい、好むと好まざるにかかわらず、行政サイドのより一層の努力が必要となってくる。

しかし、他力本頼は戒めるべきであり、地域住民の結集した力こそ問題解決の基本になります。

そういう意味からも、村民総参加による長期総合計画の策定の意義は大きく、市浦村百年の大計に立って、雄こんにして壮大な計画を樹立し、実現されることを望んでいます。

開催が必要だ。その体制づくりをする。若者とお年寄りに感覚のズレがある。子供のころから民俗芸能に親しませる機会が欲しい。学校教育の中で取り入れられないか。

小学校の複式
金木・相内分校の
位置づけは

学校教育では、よりよい先生に来ていただくには、学校教育施設はもちろん、住宅などの環境整備が必要だ。



児童数の減少で、村内4つの全小学校が複式になる可能性もあります

今後は相内、十三、協元小学校も、一学級位の複式になり「複式学級」から抜け出せない。相内小学校の新築が予定されているが、その性格付けをどうするか。

安東にかかわる「ホンモノ」は何かをまとめていけるべきか。何でも集めていけるのが安東だ。といっても、将来恥をかきたくない。自分自身がつと安東文化とのかかわりが必要だ。

施設の効率的活用
「ホンモノ」を探そう

安東文化のふるさとづくりが進められ、施設づくりが行われているが、村民の利用が少ないうではないか。村民が

村づくりは
人づくりから



人づくりを優先させなければ、市浦の将来は無いんだという立場から、人づくりのため「発声金制度」を考えようか。人材養成をして、

地元で定着させる。市浦の現状では、経済基盤が弱く、やろうとしても自然環境や技術力が乏しい。これらを解決するには教育と人材づくり以外にないと思われる。

情化社会に対応してゆくためには、情報やアイデアを取ることが大切であり、県内外からの情報の取集と合わせて、国際的視野に立った村民教育をめざすため、外国からも指導者の人材を導入することも検討すべきだ。

教育文化部会からは、村民総教育をかけた「人づくり」が、将来のまちづくりの結びつきとして、しゅうらの教育立村の提言もありました。



残された課題は、各専門部会で話し合いを深めます。

新たな展開 大きな飛躍

相馬村'87過疎サミット

地域振興に提言続々

「新たな展開 大きな飛躍をめざして」をメインテーマにした'87過疎サミットは、九月七、八の両日、中郡相馬村で開催され、県内の十八町村長が参加し、パネルディスカッションや町村長会議を行い、地域振興の方向性について活発に意見交換しました。

失敗を恐れず やるしかないぞ

パネルディスカッション

県内には、過疎地域に指定されている町村が十八団体（蟹田町、平郷村、三厩村、深浦町、岩崎村、柏村、稲垣村、車力村、西目屋村、相馬村、十和田湖町、天間林村、佐井村、脇野沢村、南郷村、倉石村、新郷村、市浦村）があります。

第三回目を迎えた過疎サミットには、町村長、担当者、県地方課、県町村会などの関係者約六十人が参加しました。

過疎サミットは、「新しい視点に立った自立中心型のムラおこしや産業おこしが課題となっていることから、過疎地域が抱える諸般の問題点を探り、その対応を考究し、豊かで暮らしやすい地域社会づくりを展望しよう」と、全国山村過疎地域振興連盟青森県支部が、昭和六十一年に本村で開催したのが最初です。

過疎地域は、自然環境に恵まれているとともに、特産物も多く、優れた伝統、文化をも有しており、都市住民の憩いの場としては最適。過疎地

域の主体性と特性を生かして地域の活性化に向けて努力はしているものの、人口の高齢化、若年層の流出等で、地域の活力は低下しています。

今回の過疎サミットでは、過疎地域の連携と行政境界を超越え、地域の活力を発揮することが地域の活性化に結びつく」とし、主題を「新たな展開 大きな飛躍をめざして」と、定めました。

一日目は、「交流による活性化の道を求めて」をテーマに、



第3回目を迎えたサミットでは、情報交換や具体的なイベントの開催など、地域連帯の重要性について話し合われました。

パネルディスカッションが行われ、パネラーとして、県特産品センター、弘前ねぶたの館代表の中村元彦さん、青年会議所青森アロックス協会長の坂本和彦さん、陸奥新報社編集局長の工藤幸夫さん、深浦町の海浦由羽子さんが着席、NHKチーフアナウンサーの清水巖さんがコーディネーターを務めました。

中村さんは、市浦村、脇野沢村、森田村などの地場産品の現状を紹介したあと、販路開拓に当たっては①安定的な品質、安定的な価格、安定供給が欠かせない。②販売体制では、物産協会を設立し、共通問題として取り組む。③全国に散らばる町村出身者を活

用する」など、地域振興、交流について特産品観光等の事業者として販路開拓に立脚から提言しました。

坂本さんは、イベントがなければ、イベントの意義は薄い。民間活力導入によるイベントの開催など、青年事業者として、また青年会議所の諸活動を通しての立場から発言しました。

工藤さんは、村づくりの根本は広域行政にあると思うが広域行政そのものが都市集中

二日目は、「交流による活性化への戦略」をテーマに町村長会議が開かれ、①過疎町村が連携したイベントの開催、②過疎町村からの情報発信、③実行委員会の設置などについて協議しました。

イベント開催は、担当課長会議でつくったタキ台として、町村対抗のアトラクション大会、観光・物産展、記念講演をメインにしたふるさとまつり的な過疎町村フェスティバル、過疎のミニ博など、既に実施している事業を含めて約二十項目が挙げられ、各町村の過疎の取り組み、意義などについて話し合われました。

傾向にある。各町村の個性を生かした観光対策、企業誘致を含めた広域行政の役割割りなど、ジャーナリストの立場からみての、地域に欠けるもの、地域のあるべき姿について発言しました。

海浦さんは、①自分の足元を見つめ直した地域ブランドの開発、②人材養成のための過疎基金の創設——など、歴史、文化、芸術面で活躍している若い女性の立場から提言を述べました。

「共同事業の実現に「実行委員会」を設置」について意見が交わられました。結果的には、イベントや情報交換の事業は具体化しませんでした。各町村長とも過疎脱却に意欲的で、地域連帯の重要性や問題点を把握しており、職員中心で組織される実行委員会の設置にも異論はなく、満場一致で決まりました。

過疎地域の活性化や、イベント開催は今後、各町村の担当職員が煮つめることになりましたが、来年以降のイベントや共同事業実現へ向けての方向性を示したことは、過疎サミットの大きな成果となりました。

台風12号直撃

潮風で水稲に壊滅的被害

被害額約2億9千万円

本村には現在、三百四十五戸、九ヘクタールの水田があり、今年被害が大きかったのは十三湖岸から日本海沿いの臨元地区までの区域。昭和六十一年の台風被害では影響のなかった太田地区や、もや山の裏側まで被害が及ぶ一村内の水田のすべてが、



台風12号による潮風害で対策協議会が開かれています。



各地区の水田では「青空教室」が開かれ、農家の指導に当たっています

- 9月1日 管内水稲倒伏調査（倒伏三・一〇）農家指導被害状況報告票及び共済連
- 9月4日 管内水稲潮風害調査、被害状況視察
- 9月9日 農作物被害対策協議会設置、畷水田対策課長来村視察、潮風害水田坪刈
- 9月14日 畷農林部長来村視察、試験田登熟調査
- 9月16日 県経済課長来村視察、共済連合会評価委員見回り調査、第二回潮風害調査
- 9月18日 青空教室
- 9月19日 第二回対策協議会

本村でまとめられたこれまでの調査では、臨元地区に建設中の「アワビ中間育成施設」の基礎部分が高波で被害を受けたほか、収穫を目前にした水稲が潮風で壊滅的な被害を受けているのがわかり、調査が進むにつれて、被害額も増大しています。

なんらかの被害を受けており、九月十六日現在の作況指数を「40・3」と試算しています。村では、収量の落ち込みばかりでなく、塩害による品質低下が心配されることから、

借金返済は、今年で終わりを果たした。このほど開かれた「被害対策協議会」や、「青空教室」に集まった農家の人たちは、「昭和五十五年の冷害による借金返済は、今年で終わりを

被害対策等の経過

潮風被害を受けた水稲はまるで「ススキ穂」のようです



途方に暮れる被災農家

「農作物被害対策協議会」を設置

全県的に被害をもたらした台風12号は、八月三十一日から九月一日にかけて本村を直撃し、強風による高波と潮風

で、本村の農業に壊滅的な打撃を与え、被災農家は途方に暮れています。

金木地区農業改良普及所などの協力を求めて、「青空教室」を開催、収穫の時期や品質管理の指導を強化しています。本村の基幹作目である水稲は、転作面積の増加や、特に今年には米価の引き下げなどで水稲所得の減収が確実視されていただけに、台風12号による潮風害の追い打ちは、被災農家にとって死活問題となりました。

「このほど開かれた「被害対策協議会」や、「青空教室」に集まった農家の人たちは、「昭和五十五年の冷害による借金返済は、今年で終わりを

果たした。このほど開かれた「被害対策協議会」では、「農作物被害対策本部」に切りかえ、今後の対応策を協議し、被災農家の救済を図るに働きかけることになりました。

市浦村長寿番付

東方

西方

	氏名	年齢	生年月日	地区
	一 三郎	96	M23. 9.16	脇元
	二 三郎	93	26. 9.23	十三
	三 市	92	27.10.24	太田
	四 市	90	29.10.20	十三
	五 谷	89	30.11.10	桂川
	六 山内	89	30.12. 7	十三
	七 本	88	31. 9.16	脇元
	八 本	88	32. 8. 1	相内
	九 山	87	33. 6.27	脇元
	十 山	87	33. 9. 9	相内
	十一 今	86	34. 3.20	相内
	十二 新	86	34. 6. 1	相内
	十三 谷	86	34. 7.14	磯松
	十四 谷	85	34.12. 8	桂川
	十五 三	85	35. 1.20	十三
	十六 村	85	35. 2.20	相内
	十七 江	85	35. 4.10	磯松
	十八 角	85	35. 6.20	十三
	十九 田	85	35. 7.27	磯松
	二十 角	85	35. 8.21	桂川
	二十一 政	84	35.10. 4	磯松
	二十二 西	84	35.12. 2	脇元
	二十三 西	84	36. 3.17	相内
	二十四 西	84	36. 5.13	脇元
	二十五 沢	84	36. 5.23	太田
	二十六 川	84	36. 8. 1	磯松
	二十七 沢	83	36.11. 5	相内
	二十八 山	83	37. 1.15	十三
	二十九 山	83	37. 2. 5	太田
	三十 高	83	37. 2.18	脇元
	三十一 高	83	37. 3.25	十三
	三十二 相	83	37. 4. 9	脇元
	三十三 坂	83	37. 5.30	十三
	三十四 藤	82	37.10.27	相内
	三十五 善	82	38. 4. 4	相内
	三十六 宮	82	38. 5.10	相内
	三十七 成	82	38. 5.29	脇元
	三十八 島	82	38. 8.29	磯松
	三十九 島	82	38. 9. 5	十三
	四十 善	81	38.10. 3	磯松
	四十一 引	81	38.10.12	脇元
	四十二 南	81	38.11. 1	磯松
	四十三 和	81	38.11.29	脇元
	四十四 本	81	39. 2.18	相内
	四十五 保	81	39. 8. 5	相内
	四十六 谷	81	39. 8.28	相内
	四十七 安	80	39. 9.20	相内
	四十八 米	80	39.10.29	十三
	四十九 三	80	39.11.18	相内
	五十 有	80	39.12. 8	脇元
	五十一 西	80	40. 1. 5	十三
	五十二 島	80	40. 3.30	磯松
	五十三 山	80	40. 4.52	相内
	五十四 大	80	40. 7. 1	相内
	五十五 前	80	40. 7. 5	磯松
	五十六 村	80	40. 9. 7	磯松

蒙御免

(昭和六十二年九月十五日現在で)

満八十歳以上の人を対象)

勅進元 市浦村役場

	氏名	年齢	生年月日	地区
	吉にシ	95	M24.11.23	磯松
	磯くカ	93	27. 7. 2	相内
	西藤川	92	27.11.10	相内
	葛佐白	90	30. 6. 6	磯松
	相戸山	89	30.11.27	相内
	成小福	88	31. 3. 8	脇元
	一 山	88	31. 9.30	脇元
	二 山	87	33. 3. 4	十三
	三 島	87	33. 9. 1	磯松
	四 今	86	34. 1. 3	磯松
	五 藤	86	34. 3.28	磯松
	六 寺	86	34. 6.27	相内
	七 島	85	34.11.11	磯松
	八 川	85	34.12.23	磯松
	九 良	85	35. 2. 8	太田
	十 上	85	35. 4.18	脇元
	十一 三	85	35. 5.24	十三
	十二 安	85	35. 7.15	相内
	十三 藤	85	35. 8. 4	磯松
	十四 藤	85	35. 8.25	脇元
	十五 丸	84	35.10.25	脇元
	十六 佐	84	35.12.28	十三
	十七 龜	84	36. 5. 4	脇元
	十八 官	84	36. 5.15	十三
	十九 福	84	36. 7. 4	十三
	二十 有	84	36. 8.29	十三
	二十一 木	83	37. 1. 1	相内
	二十二 村	83	37. 1.27	十三
	二十三 村	83	37. 2.15	十三
	二十四 奈	83	37. 3.15	磯松
	二十五 吉	83	37. 4. 5	相内
	二十六 山	83	37. 5. 1	脇元
	二十七 成	82	37.10.10	脇元
	二十八 山	82	38. 1. 4	脇元
	二十九 成	82	38. 2. 8	桂川
	三十 武	82	38. 5.24	太田
	三十一 浜	82	38. 8.25	脇元
	三十二 石	82	28. 9. 3	十三
	今小三	81	38.10.11	相内
	二 寺	81	38.10.12	脇元
	三 和	81	38.11. 5	相内
	四 西	81	39. 2. 8	脇元
	五 浜	81	39. 2.23	十三
	六 木	81	39. 8.20	磯松
	七 豊	81	39. 9. 5	十三
	八 佐	80	39.10. 7	相内
	九 山	80	39.10.29	脇元
	十 成	80	39.11.24	相内
	十一 葛	80	39.12. 8	脇元
	十二 秋	80	40. 1. 7	桂川
	十三 木	80	40. 5. 5	相内
	十四 宮	80	40. 5.28	太田
	十五 官	80	40. 7. 4	十三
	十六 村	80	40. 8. 1	十三
	十七 秋	80	40. 8. 1	十三